

いきいき 行田人

攻撃的なプレースタイルで 全国大会出場

木元 風哉さん（11歳・上池守）

今月紹介するのは、テニスで全国大会への出場を果たしている小学6年生の木元風哉さんです。

テニスが趣味というお父さんのラケットやボールが、幼少期の木元さんの身近な遊び道具となっていました。本格的にラケットを握るようになったのは、まだ幼稚園に通っていた6歳のころ。近所に同じ年ごろの男の子が少なく、スポーツを通してたくさんの方と友達をつくってほしいという両親の願いもあって、2つ上のお兄さんとともに、ジュニアテニスサークルへ通うようになりました。年齢も一番下で、体格も一番小さかったそうですが、負けん気は人一倍。「レベルに合わせたグループごとの練習で、お兄ちゃんが先に乗ったグループへ移ってしまったときは悔しかった」と話すように、小さなころから誰にも負けたくな



いという強い気持ちで備わっていたようです。

週2回だった練習は、2年生で週3回、3年生で週5回と増え、今では雨の日でもグリーンプレーナでトレーニングをするなど、平日2〜3時間、休日には7時間もの練習に弱音を吐かず取り組んでいます。さらに朝練習として、総合公園でランニングと基礎トレーニングを行うなど、テニスへの情熱は日々膨らむ一方の木元さん。これまでのハードな練習が物語るかのように、試合でもその実力は十分に発揮されており、2年生のときに初出場した公認大会で、100人以上もの選手がいる中ベスト8に。5年生のときには「埼玉県ジュニアテニス選手権大会」および「埼玉県小学生テニス選手権大会」で共に4位に入賞し、関東大会への出場を決めました。そして、今年1月から立て続けに行われている3大会「全国選抜ジュニアテニス大会」・「全日本ジュニアテニス選手権大会」・「全国小学生テニス選手権大会」でも、県予選を突破。関東大会を経て全国大会出場を決めるなど、一目置かれる存在へと成長を遂げています。

まだ小学6年生でありながら、テニスに関する1年間の計画と目標を紙に書き出し、しっかりと前を見据える芯の強さと、攻撃的なプレースタイルは大人も顔負け。これからも、木元さんは自ら打ち立てた信念を胸に、熱意という名のボールを打ち込み続けます。

私の作品

俳句

中央 藤野 芳江

青梅ややがて美味しい食前酒

忍 伊藤 英子

黄熟の麦の光や赤城山

忍 岡田 修

手をかざす裸婦像の天燕くる

荒木 秋山 二郎

青梅や産毛にやどす雨のつが

下中条 梶原 銃司

人まばら古墳の朝の涼気かな

酒巻 風間ちま子

梅雨明けの棚田に映える夕日かな

北河原 小島 光子

光射す新緑の木々生き生きと

深水町 松岡 博

田一枚早苗の色に染まりけり

向町 佐藤 猶子

厨より嫁のハミング梅雨に入る

西新町 矢野 勝一

髪白し抱えし薔薇の赤きかな

中里 鯨 美智子

夏椿地に落ちてなお白き花

持田 伊藤 洋子

海の虹水平線の果つる迄

持田 丸山 麟一

梅雨空や逢えば高齢いとこ会

荒木 高沢よね子

村の色植田の風になつており

荒木 藤田 栄之

遠退くも昔の声や閑古鳥

(木島 斗川 監修)

『12カ月』(押し花絵)

細井 一江(犬塚)



◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。